

University  
Current  
Review

ISSN 0288-1748 2024(令和6)年01月20日発行【隔月刊】

[特集]

フェアトレード活動を通じた  
持続可能な未来への取り組み

# 大学時報

NO.414  
2024. **01**



だいがくのたから  
Thesaurus Universitatis

# 九州産業大学



中村治四郎像

だいがくのたから

## キャンパスを見守る中村治四郎像

九州産業大学の正門を入ると、左手の斜面から創設者中村治四郎の銅像が来訪者を出迎える。大学の母体となった大学受験予備校、九州英数学館の創立から20年を記念して1971(昭和46)年に建立されたものである。

彫刻家の高田博厚を中心として、鐘ヶ江寿、児島幸雄、堀尾紀之、八木穂ら当時の芸術学部教員によって、約1カ月という短い期間で制作された。像の高さは2メートル(台座を含むと3.5メートル)。頭部や腕、胴体、足など手分けして制作を進め、高田博厚が全体を手直しして仕上げた<sup>※1</sup>。

文筆家でもある高田は中村治四郎について次のように記している。

「中村治四郎はなかなかのワンマンだった。しかし素直な理想を持ちつづけ、正直な人物である。相手と率直なものがない人間は本当のワンマンにはなれない。私もまた相手の地位や身分に関係なく、結局は『自分』自身に正直謙遜であろうとし

て、『もの』を言った。だから治四郎とよく気が合い、よく議論し口げんかした」<sup>※2</sup>

中村治四郎の人柄、そして二人が互いに尊敬し、認め合っていた事がよくわかる。

本学は建学の理想として「産学一如」を掲げている。「産業と大学は、車の両輪のように一体となって、時々の社会のニーズを満たすべきである」という理想は建学以来揺るがない。

遠くから見ると、少し厳しい顔をしているように感じる中村治四郎像であるが、近寄って見上げると目尻が下がり、口元も微笑んでいるように感じる。実に穏やかな表情である。正門を見つめる中村治四郎の像は、本学の未来と、行き交う学生、教職員らを厳しく、そして大きな優しさを帯びて見守っているようである。

「参考文献」※1『九州産業大学50年史』学校法人中村産業学園

2011年 p.80-81

※2『中村治四郎の肖像』九州中村高等学園

1998年 p.231





# 大学点描

好きなことを追求する生き方、  
場所や時間に固定されない自由な働き方、  
ライフステージに合わせたキャリアチェンジなど  
時代が大きく変化するなか、  
女性の生き方や働き方も多様化しています。

未来を選ぶために大切なのは  
まず、今の自分に向き合うこと。

跡見学園女子大学には、  
多彩な専門分野の学びに加え  
教養を深め、社会人基礎力を磨くチャンスがあります。  
好奇心を刺激する出会いもきっとあるはずです。  
あなたが今、興味や関心を持っていることを追いかけて、  
あなただけの未来を選んでみませんか。





跡見学園女子大学

ATOMI UNIVERSITY

# コミュニティデザイン学科は まちづくり学科に 生まれ変わります!

「まちづくり」とは、誰もが暮らしやすい環境をつくること。

「コミュニティデザイン学科」は「まちづくり」のコンセプトがより伝わりやすくなるよう、

2024年4月に名称を変更します。

新しく始まる「まちづくり学科」では、地域コミュニティの課題を解決し、

地域に住む一人ひとりが暮らしやすいまちを“つくる”力を身につけます。

観光コミュニティ学部  
コミュニティデザイン学科



観光コミュニティ学部  
まちづくり学科

2024年4月  
学科名称  
変更



“つくる”学科へ

まちづくり学科で学べる8つの分野。

行政、ボランティア、ジェンダー、社会調査、ビジネス、  
eco、都市計画、防災のそれぞれの角度からフィールドワークを重ね、  
まちを“つくる”ということを学びます。



# 2025年 跡見学園は 創立150周年を迎えます

## 自律し、自立した 女性の育成



「新しい時代に後れをとらぬ  
女子の教育こそ、教育家として  
努力すべき道である」

この信念のもと、1875年（明治8年）  
創立者・跡見花蹊は  
「跡見学校」を開校しました

日本が誇る伝統文化を踏まえ、  
英語や算術のみならず、  
華道や茶道、書道、作法なども授業に取り入れ、  
豊かな教養と自由な精神を持つ  
自律し、自立した女性を育成しました



## 現在へ続く 教育理念

華道や茶道、書道のほか、  
作法は「ソーシャルマナー」に発展し、  
現在でも授業に取り入れられています

時代に合わせて変化しながら、  
跡見花蹊の女子教育の理念は今も息づいています



## 1・2年次 新座キャンパス

緑豊かな新座キャンパスで学びます。  
穏やかな環境において、  
学問の基礎力を培います。



## 3・4年次 文京キャンパス

都心の文京キャンパスで学びます。  
社会と触れあえる環境で、  
未来への扉を開きます。



- 文学部
- マネジメント学部
- 観光コミュニティ学部
- 心理学部

- 人文学科 現代文化表現学科 コミュニケーション文化学科
- マネジメント学科 生活環境マネジメント学科
- 観光デザイン学科 コミュニティデザイン学科
- 臨床心理学科



# 跡見学園女子大学

ATOMI UNIVERSITY

University Current Review

# 大学時報

2024.01 / NO.414



いま、大学ができること

小仲 信孝

跡見学園女子大学学長

今、大学で学ぶ学生たちはいわゆる「Z世代」に属する若者である。小学校時代に東日本大震災を、高校から大学入学当初にはコロナ禍による生活環境の大きな変化を経験してきた。不安に脅かされ続けてきた彼／彼女らは、確実なものはないことを知っている。不確実性についての「経験豊富」な学生たちに、大学ができることは何か。現実を俯瞰し、事象の本質を見抜く確かな見識を修得できる学びの経験を提供することであろう。

# 18歳人口減少に向かう私立大学の役割

田中 愛治

日本私立大学連盟会長・早稲田大学総長



新年おめでとうございます。今年の本連盟加盟各大学のご発展と、各大学関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年4月26日に私立学校法の改正案が国会で、無修正かつ全会一致で可決され、5月8日に公布されました。これも私立大学連盟の加盟校をはじめとする全私学連合に加盟する各学校法人の皆様、一致団結していただいたおかげです。ありがとうございます。私たちは、改正私学法の趣旨に則り、大学のガバナンスをより一層透明にし、公正さを高めていくべく、心を引き締めて参りたいと存じます。特に、大麻などの違法薬物の所持や使用、20歳未満の学生の飲酒ならびに飲酒の強要・黙認はいたる所で起きていると考えるべきです。私たちは覚悟を持って、その防止に努め、もし事案が生じた場合には、決して隠蔽することなく、透明性の高い公正かつ厳しい態度で臨むことが必要だと痛感する次第です。

ガバナンスの透明性も重要ですが、それ以上に深刻な問題に、今日の日本の私立大学は直面しております。それは、18歳人口の急速な減少です。2013年に123万人だった18歳人口は、最新のシミュレーションによれば2050年には80万人を切ると言われています。大学進学率が約50パーセントのまま留まれば、2050年に大学進学を希望する若者は40万人未満になります。日本社会が国際

競争力を維持するためには、大学進学者数を増やして個々人の労働生産性を上げていく必要があります。そのために、日本の大学生の8割が学んでいる私立大学が、学ぶ価値のある教育機関であり、健全な学生生活を楽しめる場であることを積極的に社会に示していく必要があります。

各大学は、自学に来れば何が学べ、どのような学生生活が待っているのか、その特色をこれまで以上に高校生に明示しなければならぬと思います。そして、社会に出ても十分に力を発揮できるように、文理を分け隔てなく学ぶ環境を用意することも必要だと考えます。

同時に、高等学校の先生方にもお願いしたいことがあります。大学進学は、生徒にとって偏差値の高い大学に入学することが目的ではなく、生徒自身が知的にも精神的にも人間として成長することを目的とすべきです。そのためには、生徒は自分がやりたいことができる大学を選ぶようにご指導いただきたいと思えます。偏差値やネームバリューだけで大学を選ばないように、生徒が大学を卒業した後に伸びるような大学を選ぶように指導していただきたいと思えます。

大学の側も、そうしたメッセージを高校の先生や生徒の方たちに伝えていく努力も必要です。大学入試も1点を争うような入試からの脱却が必要です。大学入学共通テストを用いて基礎学力を確認すればよいと考えるべきで、基礎学力が確認できれば、あとは各大学各学部が望ましいと思う特徴を持った生徒を入学させるようにしていくのだというメッセージを発信することが、有効だと考えられます。

そうした努力により、大学への進学希望者を増やさなければ、日本社会の活力は更に弱くなってしまうと懸念されます。今後は大学と高校が連携しつつ、日本社会全体の教育のあり方を変えて、文理を超えて広く学び、各学生の個性を伸ばしていく大学の姿を理想として、各大学の自己変革が必要だと考えています。

# 「失敗を成功に変える力」で 未来を拓く

伊藤文一

福岡女学院大学・短期大学部学長

はじめに

福岡女学院大学・福岡女学院大学短期大学部の学長として、2年半が経過した。2021年4月に学長を拝命して以来、多くの方々に支えられ、一步一步改善の歩みを進めることができたことに心より感謝したい。

## 1. 本学の理念(MISSION)

本学は、1885年ジェニー・ギール女史によって「女性が新しい生き方を見つけられる」英和女学校として創立され、本年度で138年を迎える。学院聖句は、「I am the vine, you are the branches.」である。「つながり」という本学の理念は、連綿と守り続けられており、あまたの卒業生の生きる指針・誇りとなっている。

本学のパーパスは、「キリスト教(隣人愛の精神)に基づき、つながり、にない、かなえるよき社会人としての女性の育成」にある。

「つながり」とは「連携・協働」であり、「にない」は、「奉仕・貢献」であり、「かなえる」とは「自己実現」「幸福(ウェルビーイング)実現」である。最終的に、本学の卒業生たちが、本学で培った資質・能力を活かし、それぞれの場で生涯にわたって自己実現を果たすとともに、信仰・希望・愛にあふれた幸福(ウェルビーイング)な世界を実現することを願っている。そのパーパスをもとに、第二期中期経営計画の最終年度である2027年度にむけて、「九州でオンリーワンの魅力あふれる教育・研究・地域貢献を展開する大学の共創」をミッションステートメントとした



福岡女学院大学 125周年記念館

いと思っっている。

大学の責務は、「教育・研究・地域貢献」である。私は、本学の強みを活かし、九州でオンリーワンの魅力あふれる大学を創り上げたいと考えている。「共創」としたのは、本学すべての教職員と一緒に、「オール女学院」としての叡智を結実させたいと考えたからである。なお、本学のさらなる発展のために尽力してください、「本学全教職員の物心両面の幸福を追求する」ことは、本学経営の原点であると確信している。

## 2. 学長としてのこれまでの歩み

学長としての歩みは、何よりも「つながり（連携・協働）の具体化」である。具体的には、

- (1) 地域自治体等との連携を推進し、文部科学省私立大学等改革総合支援事業に3年間採択されたこと。
- (2) 70件以上の高等学校訪問、その他、自治体・企業等への連携を図ってきたこと。
- (3) 1500人以上のステークホルダー（学友会、教職員、同窓会、地域の方々、企業の方々）との対話・交流を図ってきたこと。

(4)30号に及ぶ広報誌『学長室の窓』を発信してきたこと。

(5)学長講演会・研修会、夢語りコンテスト等、近隣の地域や学校に本学をPRする行事を実施してきたこと。

(6)月に1回、大学周りの地域清掃を実施したこと。

これからもつながりを大切にした活動を歩んでいきたい。

### 3. 学生時代につけさせたい力(失敗を成功に変える力)

一般的に、「成功はよいこと、失敗は悪いこと」と考えられがちである。しかし、本当にそうだろうか。

私の場合、体力的・経済的・家庭的に恵まれなかったこと、受験に失敗したこと、人間関係に何度も失敗したことなど、今思えば、現在の自分を作る上で、とても役に立っているのではないかと思っている。

挫折や失敗と思える中に幸福の種があると言われるが、成功だけの人生、成功を続けるだけの人生だとしたら、なぜ成功したのかが分からないのではないだろうか。失敗すると、一つだけはっきり分かる。「これはだめだったんだ」と分かることである。つまり失敗の研究をすることで、次の成功の種が得られる。

不幸との対決への方法を下村湖人(『次郎物語』の著者)が書いた『悲運に処する道』の中に見いだすことができる。

そこには、若くしてリンゴ園の経営を始め、20代でかなりの成功を収めた青年と、下村湖人が交わした問答が書かれている。「リンゴ園を始めてから、一番つらいと思ったことは何でしたか」という問いに対し、その青年は、「この仕事を始めた最初の年に台風襲われ、せっかく育てたリンゴをむぎむぎと地面にたたきつけられるのを見て、今にも気が狂いそうでした」と答えている。しかし、その青年は、自分の考え方を变えることで、その後は台風が来て被害が出て、つらいと思わなくなったそうである。青年はこう語っている。

「台風は自然現象です。毎年吹くものと覚悟しなければなりません。リンゴが吹き落とされるのは天意にかなっていないからなのです。天意にかなったリンゴなら必ず梢に残っているはず。現に、どんなにひどい台風にも吹き落とされないリンゴが、必ずいくつもあるではないですか。私はそう考え方を変えたのです」

やはりこういう考え方が大切ではないだろうか。自分の



育てたリンゴを落とさないために台風を止めることはできない。この事業家にとっては、「台風が来ても落ちずに残るようなリンゴをつくりたい」と考えたことが、人生の一つの転機だったのである。若いときには、学生たちには失敗を通して学ぶ心も大切にしてほしいと願っている。



ギール記念講堂(チャペル)

## おわりに

私は、本学に採用されて、17年目になる。その間、多くの「つながり」を結ぶことができた。私はこれからも、地域貢献を大切にしながら、大学運営をしていく所存である。

## 参考文献

- (1) 底本：下村湖人『青年の思索のために』（新潮文庫、新潮社）  
1955（昭和30）年8月25日発行  
1990（平成2）年8月25日50刷  
入力：小島文幸  
校正：酒井和郎  
2015年12月7日作成  
青空文庫作成ファイル
- (2) 福岡女学院105年史(学校法人福岡女学院105年史編集委員会)  
(1992年10月1日)
- (3) 福岡女学院125年史(学校法人福岡女学院125年史編集委員会)  
(2011年5月1日)